

令和7年度 第1回環境審議会議事録(議事要旨)

1 開催日時 令和7年9月3日(水) 午後2時00分～3時15分

2 開催場所 浦安市役所10階 協働会議室

3 出席者

(委員)

奥会長、亀井委員、後藤委員、小神委員、島野委員、畑山委員、中川委員、宮川委員
植木委員、弦本委員、松尾委員

(事務局)

環境部長、環境部次長、環境保全課長、ごみゼロ課長、環境衛生課長
環境保全課 課長補佐、温暖化対策推進係長、温暖化対策係1名、環境推進係1名

4 次 第

- ・ 事務局紹介
- ・ 部長挨拶
- ・ 開会
- ・ 議題

(1) 第3次環境基本計画の進行管理に係るアンケート調査結果について

(2) 令和7年度環境月間における取り組みについて

(3) その他

- ・ 閉会

5 議題要旨

(1) 第3次環境基本計画の進行管理に係るアンケート調査結果について

事務局より、資料1-1「第3次浦安市環境基本計画中間報告書」及び資料1-2「第3次環境基本計画の進行管理に係るアンケート調査結果について」に沿って説明した。委員からの主な意見は以下のとおり。

(委員) 市民向けアンケート調査結果で、「気候変動に適応したまちづくりの推進に関すること」の実践状況について、前回よりも下がっていることが疑問に感じた。今の季節であれば学校や市で熱中症対策が行われているが、市の取り組みが市民に伝わっていないのではないか。また、アンケート調査結果は他の部署にも共有しているのか。

(事務局) 「気候変動に適応したまちづくりの推進に関すること」の市民の実践状況が前回よりも下がった点については、事務局としても疑問に感じているところであるので、原因について今後分析していきたいと考えている。また、アンケート調査結果の共有については、分析結果を踏まえて他部署に共有する。

(委員) 「第3次浦安市環境基本計画中間報告書」については、「第3次浦安市環境基本計画書」と同じ構成で作成されたら良いと思う。また、アンケート調査結果について、今回はインターネットで実施したとのことだが、アクセス先の周知はどのように行ったのか。

(事務局) 無作為抽出の方については、文書にQRコード及びURLを記載して郵送し、回答先にアクセスしていただく方法で実施した。

(委員) 市民の対象者数について、前回の2,000名から1,000名に半減している理由は何

か。また、Uモニでの調査は行わないのか。

(事務局) 今回は費用面の都合もあり、無作為抽出による対象者を1,000名とし、加えて、広報うらやすやイベント時などにおいて、不特定多数の方にアンケートへの協力を依頼した。また、このアンケート調査以外にも、委員からご指摘のあったUモニについても同じような設問で実施している。Uモニの結果については、今回の市民・事業所向けのアンケート調査と合わせて中間報告書に反映させていきたいと考えている。

(委員) 郵送で周知した以外の方からは、どの程度の割合で回答があったのか。

(事務局) 郵送以外については、広報うらやすを含めて様々な方法で周知したため、母数を算出することが難しい。また、回答のしやすさを優先して無記名での回答としたことから、回答者のうち、郵送以外の方の割合を判別することは困難である。

(会長) 次回会議で中間報告書(案)を議題とする際は、Uモニの結果についても反映した内容として欲しい。

(委員) 「環境行動」に関する市民の実践状況で、無関心層が増えているという分析結果に関して、環境学習の現場において、環境に興味を持って勉強している子がいる一方で、無関心な子もいて二極化しているように感じる。地球温暖化などはニュース等で報道されているが、学習内容となかなか結び付いていない。この点を含めて、どのように興味を持ってもらえるかが、今後の課題であると思う。

(委員) 事業所向けのアンケートで、全体的に環境に対する意識や行動が高くなっているという結果について、ゼロカーボンに向けた取り組みが世界的な動きとしてある中で、事業者としても重要視してきているという実感がある。一方で、事業者は利益を追求しなくてはならないため、景気の動向によって数値が変わってくる可能性もある。

(会長) 本来は環境と経済の好循環により、両者がいかに一緒に向上していくかが重要であるものの、やはり景気が悪化すると環境対策が後回しになってしまう傾向がある。そうならないようすることが、行政が事業者への支援策を検討するうえで重要な視点となる。

(委員) 浦安市は風力発電や大規模な太陽光発電を設置する土地がない中で、山武市と連携した事業を行っているなど、環境審議会委員になって初めて知ったところである。そういった市の取り組みを知ることが、市民の意識の向上につながっていくのではないかなと思う。今回は傍聴の方がいらっしゃらないが、市民の方が会議に傍聴に来ることで、市民への啓発の機会になっていくと思う。

(会長) 環境審議会の開催については、市のホームページなどで周知していると思うが、傍聴希望者は事前申込制なのか。

(事務局) 事前ではなく、当日会場で受付を行っている。

(会長) 市民の関心が高い議題であれば傍聴希望者も多くなってくると思う。今後、第3次環境基本計画中間報告書の案が議題になるということで、ぜひ中身を多くの方に知っていただけるよう周知して欲しい。

(委員) 生物多様性に関して、そもそも生物多様性とは何なのかということを周知していくべきである。身の回りの生物に関心を持って観察することで、私たち人間に何ができるのかを考えることが生物多様性を理解するうえでの第一歩であると思う。浦安市は三番瀬があることから、海の生物については関心が高いと思うが、緑やそれに集まる昆虫の類に関心を持ってもらうことも大切である。ビオトープのように生物が集まる場所をもっと事業者との連携などによって設置していかないと、生物への関心が高まっていかないであろう。また、地球温暖化で魚が本来の場所で捕れなくなっていることや、野菜や果物への影響などが報道されているが、そういったところから、生物多様性について人々ができることを考えていくことが重要である。

(会長) 本日欠席の委員から事前に意見をいただいているので紹介する。「中間報告書の構成についてはわかりやすいと思うが、計画の進行管理指標の見直しの内容がどのようなイメージであるのか。」ということ、「アンケート調査結果については、市民の方に

25間は少し多かったのではないか。」というご意見をいただいている。

(事務局) 中間報告書における計画の進行管理指標の見直しについては、最終的な目標達成に向けて令和7年度末時点での目標値を設定しているので、例えばその目標値を上回っているのであれば、さらに上の数値を検討するというように、目標値に対する進捗状況によって見直しを行う。

(会 長) 指標自体を見直すのではなく、目標の数値を見直すということか。

(事務局) そのとおりである。

(会 長) 次回の審議会においては、Uモニの調査結果の報告と環境基本計画中間報告書の案について示されるということなので、これについて皆さまからご意見を頂戴したいと思う。

(2)令和7年度環境月間における取り組みについて

事務局より、資料2「令和7年度環境月間における取り組みについて」に沿って説明した。委員からの主な意見は以下のとおり。

(委 員) 私が所属する「チーム530」は、「環境ひろばin三番瀬」で、展示やエコステーションにおいて、ごみの分別のデモンストレーションを行い参加している。三番瀬環境観察館という立地や会場の広さという面からすれば、最大限工夫して開催しているということは理解しているが、これまで何度も話が出ているが、やはり新浦安駅前での開催が本当に難しいのかということ再度検討して欲しい。三番瀬環境観察館での開催は、干潟観察会などその場所の特徴を活かした内容で良いと思うが、それとは別に新浦安駅前など人が集まる場所で開催できると相乗効果も生まれると思う。

(事務局) 過去の審議会において同様のご意見をいただいていることは重々承知している。令和8年度以降、どのようにできるかについては今後検討していきたい。

(委 員) 「環境ひろばin三番瀬」で、ビオトープが整備されてイベントが行われていた。運営協力者から話を聞いたが、ビオトープから水が抜けてしまい、現状では恒常的に使えない状態であるとのことであった。生物多様性の学習が出来る場所でもあるので、費用がかかると思うが、もう少し整備されると良い。

(委 員) 「環境ひろばin三番瀬」について、レベルの高い非常に良いイベントであることは理解したが、やはり来場者が少ないように思う。せっかくのイベントであるから、もっと利便性の良い場所での開催が望ましい。また、環境への関心について先ほどの議題でもあったが、わざわざ三番瀬環境観察館まで行って参加する人は、まさに関心のある子どもたちであり、関心のない子は当然参加せず、関心が上がらないままである。良いイベントであり、もっとPRして欲しいと思うので、中心地から距離がある場所だけではなく、浦安の三番瀬海岸をうまく使って、例えば、まちづくり活動プラザと観察館をつなぐなど、点から線への展開ができると良い。また、生物多様性をメインにした環境全般に関するイベントであるのに、サブタイトルに「ゼロカーボン」と入っていた点について違和感があると以前の審議会で指摘したが、今回は改善されている点は良かった。

(委 員) 三番瀬海岸親水施設について、イベント以外に月に一度、一般開放をしているが、どのくらいの参加者がいるのか。また、月に一度の開放ではなく、もう少し回数を増やすことができないのか。また、ビオトープに関して、子どもたちにとってとても良い場所であり、弁天ふれあいの森公園にビオトープがあるので、そういったものを参考にして整備して欲しい。

(事務局) 三番瀬海岸親水施設で月に一度行っている一般開放の参加者数については、開催月によって差はあるが、100～200名の方に利用していただいている。開放日数については、開放時間を含めてご要望いただいていることは承知しており、現在検討をしているところである。また、先ほどからビオトープについての話が出ているが、三番瀬環境

観察館に隣接していることから、施設の管理は環境部が所管しており、草刈り等の手入れをしたところ生物が生息していることを確認している。また、水が溜まらないということについては、現在対応を検討しているところである。

- (委 員) 「環境ひろばin三番瀬」のアンケート調査結果における来場したきっかけに関する設問で、「その他」が34人で一番多いが、その内容を教えて欲しい。また、今後開催して欲しいイベントに関する設問で、いろいろと意見が出ているが、この中で実施の可否について検討されているのか。
- (事務局) 来場したきっかけの「その他」については、その内容を記述式で聞いていないため、具体的な内容については把握できていない。令和8年度以降のイベント内容については、本日いただいたご意見を含めて精査していく段階であるので、具体的にはまだ決まっていない。
- (委 員) 来場したきっかけの「その他」について、日頃、三番瀬緑道をウォーキングやランニングしている人が多く、そういった方がイベントに立ち寄ったのではないかと思う。
- (委 員) アンケートの自由記述に、「海の生物を採る・採らない」に関する意見があるが、キャッチ&リリースを徹底するわけにはいかないのか。自分で捕まえて、観察して、海に戻すという経験がとても大切であると思う。
- (事務局) アンケートの自由記述に関する内容の確認が取れず、実際の状況は不明であるが、生物を捕まえた後は、観察して海に戻すことを周知している。また多くの人が観察できるよう生物を水槽に入れているが、イベント終了後に海へ戻している。
- (会 長) 本議題についても、事前に欠席委員から意見をいただいているので紹介する。「ミニ環境展の自由記述について、いくつか厳しい意見があるので改善すると良い。特にルビを振るなどは、簡単に取り組めると思う。」という意見をいただいているので、参考として欲しい。

(3)その他

次回会議は3月の開催を予定している。詳細については、後日連絡する。

6 傍聴者

傍聴者0名

以 上